

2021年2月末時点

東京工業大学附属図書館における新型コロナウイルス感染症対応状況

附属図書館としての対応方針

本学の対応方針水準に同期して附属図書館としての対応方針を策定し、感染拡大防止を徹底しながら、閉館中サービスから順次開館へと利用者の利益を最大にするよう努めた。併せて、在宅でも可能なサービス拡充に向けて、スピード感を重視して推進した。

東京工業大学の対応水準

2020/4/8（水） <レベル 3>
2020/6/1（月） <レベル 2.5+>
2020/6/22（月） <レベル 2.5- >
2020/8/17（月） <レベル 2+>
2020/9/9（水） <レベル 2- >
2021/1/8（金） <レベル 2.5- ver.2>

大岡山本館の開館状況

2020/3/5（木）学外者の入館利用を不可（2021/2/26 現在、入館利用不可は継続）
4/1（水）地下1階のリフレッシュルーム、学習棟（2階、3階）を使用不可（2021/2/26 現在、使用不可は継続）
4/8（水）～6/21（日）75日間の臨時閉館
6/22（月）開館再開（平日 10:00～16:00のみ、閲覧席の利用は不可）
8/17（月）開館時間の延長、土日・祝日開館の再開（平日 8:45～17:00、土日・祝日 11:00-17:00）、閲覧席の利用再開
9/30（水）開館時間の延長（平日 8:45～21:00、土日・祝日 11:00-17:00）
2021/1/18（月）開館時間の短縮（平日 8:45～20:00、土日・祝日 11:00-17:00）

すずかけ台分館の開館状況

すずかけ台分館は、S3棟の全面改修のため、4/1（水）から学内者に限定して1階カウンターのみ開館し、4/8（水）～6/21（日）の新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時閉館を経て、6/22（月）から学内者限定でR3-D棟1階の仮設分館でサービスを再開した。
開館時間は、6/22（月）～8/16（日）は平日 10:00～16:00、8/17（月）からは平日 8:45～17:00。
夜間や土日・祝日の延長開館を行わないこと、学外者利用を制限することは、コロナウイ

ルス感染拡大防止とは関係なく、改修に伴う当初からの予定どおり。

学内会議での報告

4/24（金）新型コロナ拡大対策本部会議で、研究推進部長から郵送貸出サービスの実施を前向きに検討中である旨報告

5/8（金）新型コロナ拡大対策本部会議で、附属図書館長から学生向けの図書の郵送貸出サービス開始について報告

5/21（木）新型コロナ拡大対策本部会議で、附属図書館長から学生向けの図書の郵送貸出サービスの状況について報告

6/4（木）すずかけ台地区部局長等懇談会で、附属図書館分館長からすずかけ台仮設分館開館に向けたスケジュール、附属図書館の新型コロナウイルス感染症対応について報告

6/11（木）事務連絡協議会で、情報図書館課から図書館の限定開館再開、郵送貸出サービスの状況について報告

6/19（金）部局長等連絡会で、附属図書館長から図書館の限定開館再開、郵送貸出サービスの状況について報告

7/2（木）すずかけ台地区部局長等懇談会で、附属図書館分館長からすずかけ台仮設分館の紹介、附属図書館の新型コロナウイルス感染症対応について報告

10/2（金）教育研究協議会で、附属図書館長から入館状況、学生証を未だ渡されていない大学院生が一定数見受けられることについて報告

10/16（金）部局長等連絡会で、附属図書館長から入館状況等について報告

2021/1/22（金）部局長等連絡会で、附属図書館長から入館状況等について報告

郵送貸出

本学学生を対象に、郵送による図書の貸出サービスを5/7（木）から開始した。当初は、第2Qが始まる6月中旬までを期間にしていたが、大学の対応方針のレベルの移行に合わせて、<レベル1>になるまでは本サービスを継続する予定とした。

当初は合計3冊まで（返却しても追加では借りられない）としていたが、学生からの要望を受け、郵送貸出で常時6冊まで借りられるようにした。

2020年12月末現在での、貸出冊数は2,356冊、利用学生数は926名である。返却が延滞しているのは3冊のみで、返却回収率は99.9%

この取組については、専門図書館協議会から会誌『専門図書館』への寄稿依頼があり、担当者が執筆した。2020年10月刊行のNo.301・302合併号「特集：新型コロナウイルス感染症対策：図書館の記録」に掲載された。

小宮山史. 東京工業大学附属図書館におけるコロナ禍への対応：郵送による資料貸出サービスを中心に. p76-79

貸出期限の延長措置

図書を返却するためだけに来校しなくてもいいように、貸出中の図書の返却期限日を延長した。当初の返却期限日は4/9（木）であったが大学の対応方針のレベルの移行に合わせて、5回の延長措置を行った。6/11（木）→7/2（木）→10/7（水）、（1/14～2/9）→2/10（水）→3/10（水）

また、郵送による返却（送料は本人負担）は、当初、郵送貸出分についてのみ個別対応で受付けていたが、新型コロナウイルス感染症に対する特別対応として、カウンター貸出分についても2020年10月から可能とした。

国立大学図書館協会加盟機関の情報の集約

他大学の状況を参考にするため、国立大学図書館協会のメーリングリストで通知された他大学図書館での臨時閉館等の内容を「国立大学図書館新型コロナウイルス感染症対応一覧」として随時まとめた。

自動扉の開閉制御（大岡山本館）

臨時閉館中は、4か所の外との自動扉（1階通用口、1階出入口、2階出入口、地下1階出入口）は、閉鎖した。

1階通用口と1階出入口は、7/29（水）に通常運用に戻した。

地下1階出入口は、6/22（月）の開館再開に合わせて、通常運用に戻した。ただし内側の自動扉は換気のため常時開放とした。

閉館中の見回り（大岡山本館）

臨時閉館中は、警備員による巡回は休止したが、不測の事態に備えるため出勤者による館内巡回は1日1回実施した。

電話による問合せ対応

問合せはメールに集約（課長以下、常勤職員全員が確認、適宜、担当者が回答）し、問合せ先として公開している電話は留守電対応とした。すずかけ台分館では、10/1（木）から留守電対応は解除した。大岡山本館は2021年2月現在、留守電対応のまま。

関連して、他大学でtwitterやzoomを使った問合せ対応を行っている事例を調査し、課内で共有した。

他機関からの資料取寄せ／他機関への提供

学外機関との資料取寄せの依頼・受付業務は4/8（水）から休止した。

7/14（火）から、文献複写の取り寄せ・提供を再開した。ただし、他大学からの依頼受付の条件は「本学のみ所蔵、所蔵館僅少資料のみ」とした。

8/4（火）から、図書の取り寄せ・提供を再開した。他大学からの依頼受付には 文献複写と同じ条件を設けた。

10/5（月）から上記の条件を外し、通常化した。

学内他キャンパスからの資料取寄せ

大岡山、すずかけ台キャンパス間での資料取寄せは 4/8（水）から休止した。

7/14（火）から再開した。

図書館見学、ライブラリーツアー

2020 年 3 月から図書館見学の依頼受付は休止した。

例年 4 月に実施している新入生等を対象としたライブラリーツアーは中止した。

これに代わるものとして、図書館サポーターとの協働で図書館バーチャルツアーの動画コンテンツを作成した。（後述）

資料の発注・納品の休止

4/6（月）～5/29（金）資料の発注、書店からの納品を休止した。

4/7（火）～6/19（金）図書館に届いている研究室雑誌の引取りを休止した。

館内の感染症拡大防止対策

5/15（金）に保健管理センターの福岡俊彦教授による職員向け講習会を zoom で実施し、学務部職員を含め 65 名が参加した。また、福岡教授による図書館内での巡検を 6/18（木）及び 9/29（火）に実施し、アドバイスをいただいた。

6/22（月）の開館再開に合せ、カウンターへの飛沫防止アクリル板の設置、入館ゲート前に大判の「手洗い励行ポスター」の掲示、館内の全てに洗面所へ石鹸と消毒液を設置した。また、地下 2 階のリフレッシュルーム閉鎖に伴い、同ルーム内にあった教養雑誌を地下 1 階に移動した。あわせて入館ゲート外に置いてあった当日の新聞を館内に移動し、閲覧者が密にならないようにした。すずかけ台分館でも、カウンターに飛沫防止シートや消毒剤を設置した。

8/3（月）に地下 1 階のエントランスに自動検温装置を設置した。自動検温装置は、2021/1/15（金）にバージョンアップ版が再設置された。また、すずかけ台分館（仮設分館）のエントランスにも設置予定。

8/17（月）に利用者が自分で使える消毒スプレーセットを各フロアーに設置した。

8/27（木）に入館ゲート手前に「マスク着用のお願い」のポスターをその理由と共に追加掲示した。

11/5（木）に地下 2 階の閲覧机に飛沫防止アクリル板を設置した。

2021/2/18（木）に地下 1 階の閲覧机の一部に飛沫防止アクリル板を設置した（残りは 4

月以降に設置予定)。

2021年2月現在、職員の通常業務としてカウンター周り他の設備消毒作業を1日3回実施している。地下フロアでの利用可能な座席数は、地下1階128席、地下2階103席と、通常の4割程度に抑えている。

2021年2月現在、共有の蔵書検索用・情報検索用PCの利用台数を12台から7台に減らしている。また、DVDプレーヤー7台の利用はすべて中止している。

事務室等の感染症拡大防止対策

2020年11月中旬までに全ての執務席に飛沫防止の亚克力板の仕切りを設置した。

図書館サポーター活動

2020年4月から図書館サポーター(本学学生)の活動を休止した。

例年5月に行っている新規サポーターの募集を今年度は実施しないこととした。

7月中旬からリモートでの図書館サポーター活動を再開し、図書館バーチャルツアーの動画コンテンツの作成、オンライン版図書館謎解きゲームのコンテンツ作成を行った。

10月から、図書館内での図書館サポーター活動(カウンター業務補助、返本作業、図書整備等)を再開した。感染防止の観点から、同時にシフトに入れるサポーター数は3名を上限とした。

電子ブックの充実

自宅から利用できる資料、特に日本語の電子ブックを充実させるため、丸善、紀伊国屋書店の「電子書籍試読サービス」を実施した。

- ・ 丸善『Maruzen eBook Library』7/1(水)～9/30(水)
- ・ 紀伊国屋書店『KinoDen』6/11(木)～9/11(金)

また、授業関連の図書は積極的に電子ブックで購読した。

試読サービス等の活用により、2020年12月末現在の日本語の電子ブックは832タイトルとなった。利用件数は、昨年度比で約3.3倍であった。

オンラインセミナー等の開催

例年、対面で実施していたデータベース利用講習会、論文執筆セミナー、学士課程1年生向け授業「情報リテラシー第一」での図書館活用法等をオンラインで実施した。

新たに、図書館職員による「ライブラリーセミナー」をオンラインで10/21(水)に開催した。

在宅で利用できる図書館サービスの紹介

在宅での学習・研究活動をスムーズに実施できるよう、図書館Webサイト上に特設ペー

ジを作成、公開した。また、オンラインミーティング背景用に大岡山本館館内の画像を配信した。

- ・ 在宅で利用できる図書館のサービス <https://www.libra.titech.ac.jp/remote>
- ・ 在宅での電子資料の利用方法 https://www.libra.titech.ac.jp/e-resources_temporary
- ・ 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により利用可能な電子資料 https://www.libra.titech.ac.jp/e-resources_coronavirus

課員の在宅勤務について

4月は大岡山本館およびすずかけ台分館それぞれに2名の職員による出勤シフト体制を組み、外部対応等を行った。5/8（金）からは、郵送貸出サービス業務対応のため、4名～6名程度の出勤シフト体制とした。6月以降は、在宅でできる業務は在宅で実施することと併せ、徐々に出勤者の割合を増やし、業務にあたった。

在宅勤務の長期化に備えて、課内職員（含む非常勤職員）の自宅でのネット環境、PC環境の調査、課内職員（含む非常勤職員）の最寄り駅、出勤経路、出勤のため公共交通機関の乗車時間等の調査を行った。

在宅勤務中の職員間での情報共有、モチベーション維持を目的に以下のような工夫を行った。

- ・ 著作権に関する zoom 勉強会を 3/27（金）3/31（火）の接続テストを経て、4/14（火）、4/17（金）、4/24（金）に実施
- ・ 各グループの事情に合せ、グループ毎の Slack による打合せや定例の zoom 打合せを実施
- ・ グループ長会議等を zoom で実施
- ・ 課長から全課員に対して、定例のメール報告を発信。2021年1月末までに計127件
- ・ グーグルスプレッドシートでの在宅勤務者、出勤勤務者、休暇取得者の一覧を作成し、お互いの勤務状況を「見える化」共有

「After/With コロナ×東工大図書館」

5/14（木）～5/22（金）「After/With コロナ×東工大図書館」に関する課内プロポーザルを実施し、23名から計48件の提案があった。この提案に対して、5/29（金）～6/5（金）課内で共感アンケートを実施し、共感度の高かった「ライブラリーツアーや図書館見学に替わるオンラインコンテンツの作成」「電子ブック等非来館で使えるコンテンツの積極的導入」「オンラインで利用できるサービス・資料をまとめたページの作成」を実行した。

8/4（火） 在宅で利用できる図書館サービスを公開

<https://www.libra.titech.ac.jp/remote>

10/28 (水) 「ねっ, 図書館」 ネットで図書館体験を公開

<https://www.libra.titech.ac.jp/supp-event>

コロナ禍の状況下の業務において結果として良かったこと, 良くなったこと

今後も活かせること, これを機会に変えるべきこと

- ・ これまで対面で実施していた, 情報図書館課職員が担当する授業 (図書館利用方法, 文献検索等) や外部講師を招いての論文執筆セミナー, データベース利用講習会等をオンラインで実施したことで, 2019 年度と比べ, 申込件数が平均 2.8 倍, 参加者数が 2.1 倍と増加した。学生が授業でオンライン講義に慣れていたこと, 時間や場所の制約が少ないため参加しやすかったことなどが要因と考えられるが, 今後もオンラインでの開催を検討していく。
- ・ 対面での見学対応ができなくなったので, 「電子版見学ツアー」コンテンツの作成を学生サポーターとの協働で企画・実施した。今後も, 現役の東工大生である学生サポーターのアイデアが活かされたコンテンツを順次, 作成, 公開していく。
- ・ これまでも, 東工大では, 電子ジャーナルをはじめ, 数多くの電子コンテンツを整備してきたが, 図書館 Web サイト上に「在宅で利用できる図書館のサービス」等を作成, 公開し, より, 利用者のニーズを踏まえたサービスを展開することができた。
- ・ 在宅勤務者と出勤勤務者との間で, 情報格差が生じないよう様々な工夫を行った。これにより, Zoom, Slack 等の新しいツールを多くの職員が使えるようになったことに加え, 平時よりもさらに情報共有, 意識共有が図れ, 迅速な意思決定を行うことでコロナ禍の状況下で行うべき新しいサービスを実行できた。

以上